

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	総務文教常任委員会		会議場所 全員協議会室 担当職員 井上
日 時	令和3年5月28日(金曜日)	開 議 午後 2時00分 閉 議 午後 3時50分	
出席委員	◎木村 ○浅田 三上 山本 松山 小松 齊藤 石野 (福井議長)		
執行機関 出席者	山内市長公室長、篠部SDGs創生課長、小林広報プロモーション課長、 辻SDGs創生課主査 高木SDGsアドバイザー (オンライン)		
事務局	山内事務局長、井上事務局次長、熊谷事務局総務係長		
傍聴	可	市民 1名 報道関係者 0名	議員 7名 (小川、長澤、富谷、平本、奥野、藤本、木曾)

会 議 の 概 要

14:00

1 開議

2 事務局日程説明

3 案件

(1) 講演

<木村委員長>

さっそく高木先生にご講演いただく。事務局から高木先生のご紹介をさせていただきます。

(事務局次長 講師紹介)

(SDGsアドバイザー 講演)

14:45

《質疑》

<松山委員>

相乗効果はポジティブ、トレードオフはネガティブという捉え方をしているが、トレードオフに至ったとき、どのように判断して結論や解決策に持っていくかということについて所見を伺いたい。

<SDGsアドバイザー>

どのようにトレードオフを減らしていくかということについて、提示できるものは残念ながらないが、今までトレードオフの議論は蚊帳の外にあって、相乗効果ばかりに目を取られていた。もしくは相乗効果も語られずに、1つの取組の効果だけが語られていたというのがこれまでの政策の状況でもあると思うので、SDGsを上手く活用して、マイナスの側面もあるのではないかと、そしてそれをいかに減らしていったら相乗効果を増やしていくかということが重要ではないかといった議論の材料に、この相乗効果とトレードオフというものを使っていたらいいかと思っている。明確な手法等が

あるわけではないが、私はそのように考えている。

<松山委員>

ネガティブなこともテーブルに乗せて問いに出すということが大切だと考えているが、話していただいた内容と合致しているか。

<SDGsアドバイザー>

合致している。トレードオフを減らしていくという話をいかに議論の中に出して、相乗効果を増やしていく話をしていくかということが、これからの行政には必要であると考えている。

<小松委員>

バックキャストिंगの話をしていただいたが、これまで行政は積み上げでやってきた。第5次亀岡市総合計画を立てたが、人口に関しても大きな目標を立てずに計画を立てている。バックキャストिंगという考えがあれば、高い目標を立て、そこから考え直して今何をすべきかを考えられると思う。亀岡市SDGsアドバイザーとして、移住・定住の問題、シティプロモーションの問題に関して、SDGsに絡めて提案やアドバイスはあるか。

<SDGsアドバイザー>

シティプロモーションについては、私も2冊目の本の中で取り上げているが、どういったまちを描いていくかということの中にヒントがあるような気がしている。例えば、人口を維持していくことを目指していくのか、それとも増やしていくのかを明確に示していかなければ、若い世代を呼び込むのか、今住んでいる人の生活の質を向上させていくのかといった議論ができない。どのような目標を立てるかということが、非常に大事だと思う。具体的にどういった方法が考えられるかということ、シティプロモーションには広報の側面もあるので、例えば今まで明朝体で作っていたチラシを、多くの人が見やすいユニバーサルデザインフォントに変えるだけでも、これまで亀岡市の移住のチラシが明朝体で作られているとすれば、見づらくて分かりづらくて移住に関心がわからないと思っていた人も、見やすいということで間口が広がったり、障がい者も住みやすいまちというように、SDGsの観点からまちを変えていくことによって、今までターゲットに入っていなかった人に情報が届いていき、移住にもつながるのではないかと思っている。

<三上委員>

SDGsの目標は、今までの施策の中にも多く含まれているので、これなら既にやってきたという感覚も受けるが、一方、ヨーロッパに比べて日本が遅れている理由は、決めた目標をあいまいにしてしまうということがある。決定的に違うのは、住民参画が弱いと聞いている。従来どおりにやるのではなく、計画の段階から住民参画が必要だと言われたが、そこで行き詰まることもあると思う。ヒントになることや先進的な事例があれば教えていただきたい。

<SDGsアドバイザー>

住民参画の先進事例としては、石川県金沢市は市だけでSDGsを進めるのではなく、青年会議所の方々と金沢にある国連機関の三者で協定を結び、三者でSDGsの取組を進めている。住民を巻き込んで、金沢市の未来を一緒に議論する場と、計画の策定までを行っている。金沢市は、SDGsを達成しながら金沢市をどのようなまちにしていけばよいかという未来計画図を既に作って発表しているので、その達成にむけて、翻って今何をしようかということ議論している段階であると聞いている。亀岡市役所の開かれたアトリエも、今まで市役所に足を運ぶ機会がなかった年代の方々も来られていると聞いているので、子どもたちや子育て世代の方々も含めて、新しいまちの

形をみんなで議論していく機会になるのではないかと感じている。

<木村委員長>

今日は総務文教常任委員会以外の方も傍聴していただいているが、時間の都合上、質問があれば事務局を通じて先生に回答をお願いしたいと思う。これをもって講演を終了させていただく。先生には大変お忙しい中、貴重なお話を聞かせていただき感謝申し上げます。

(講演終了)

14:55

<木村委員長>

行政報告の前に、齊藤委員より発言の申し出があるのでお願いします。

<齊藤委員>

去る5月25日の京都中部広域消防組合議会において、急遽欠席することになった。総務文教常任委員会から選出されており、大変ご迷惑をおかけしたことを深く陳謝したい。また、先日の総務文教常任委員会で、総務文教常任委員会は非常に時間がかかると申ししたが、石野委員の発言の後に出たことから、気を悪くされた方もおられると思っている。私も10年前に総務文教常任委員会に入り、その後、産業建設、環境厚生と3つの常任委員会を渡ってきたが、総務文教常任委員会はボリュームが多すぎると感じており、これまでから時間が一番長かった。そのような意味で、総務文教常任委員会は時間が長いと言ったのであるが、言葉足らずで申し訳なく思っている。この件に関しては、幹事会、議会運営委員会等で振り分けることができるのであれば考えていけばと思う。貴重な時間をお取りして申し訳なかった。

<木村委員長>

京都中部広域消防組合議会は、南丹市、京丹波町の議員もおられる中で、亀岡市の議員が欠席するということは大変遺憾である。今後、このような事情があれば、私が委員長として責任を持って参加することに変更するようなことも考えたいと思うので、よろしくお願いします。総務文教常任委員会の時間は、所管が多くこれまでから時間がかかっているため、各自、十分時間をとるようスケジュール管理をお願いしたい。今後とも総務文教常任委員会の運営にご協力をお願いしたい。

次に、市長公室から行政報告を受けることとする。理事者入室まで暫時休憩する。

(2) 行政報告

(市長公室 入室)

15:00

○ 令和3年度SDGs推進計画について

○ 新ホームページの概要について

市長公室長 あいさつ
各課長 説明

《質疑》

<木村委員長>

令和3年度SDGs推進計画について、質疑はあるか。

<小松委員>

市民向けの取組はあるのか。

<SDGs創生課長>

今年度は職員、学生、事業者を対象とするが、市民向けもしていく必要があるので、今年度の事業を進める中で検討していきたい。

<松山委員>

市民に入っていただくことが大切だと思っている。事業者ということであるが、先ほど高木先生が言われたようにいろいろな方の意見を聞かなければならない中で、協議会などのメンバーがいつも同じである。人選方法を考えていかなければならないと思うがどうか。

<SDGs創生課長>

先ほどの高木先生の話の中でも、市民を巻き込んでと言われていたので、方向性はこのような形でさせていただくが、市民を交えた研修等も検討していきたいと考えている。

<木村委員長>

新ホームページの概要について、質疑はあるか。

<松山委員>

文字が小さいように感じる。市民は、最初に見たイメージで使いやすいか使いにくいかを判断されるのではないか。また「生活便利ナビ」は、ホームページを開いた最初にあったほうがよいのではないか。生活便利というところが、使い勝手のよしあしの判断基準になると私は考えている。また、フォントが明朝体では見にくいという人もおられる。議会も予算を承認しているので、フォントの見直しも検討してほしいと思うがどうか。

<広報プロモーション課長>

フォントや文字の大きさについては、グローバルデザインを導入する。文字の大きさは、スマートフォンの画面を視野に入れて、今後、適正化を図っていく。見やすいことが第一と考えている。色合いも、ユニバーサル的な要素が決まっているので、視力の弱い方も容易に認識でき、光の弱いところでも読めるよう、今後、検証を重ねながら決定していく予定である。「生活便利ナビ」の位置については、市民ファーストを重要なファクターとして考えているので、使いやすさの検証を重ねながら位置を決めていきたいと考えている。

<松山委員>

今のホームページは見にくいと言われている。最初にトップページに出てくるものをクリックし、次のページに移ったときに、どこに何があるか分からないという声を多く聞く。トップページは格好よく作っていただいているが、次のページも市民ファーストで考えてほしい。文字の大きさも含めて、最初の印象をよくしてほしいので、事業者と綿密に詰めてほしいと思うがどうか。

<広報プロモーション課長>

市民ファーストをしっかりと認識し、最終的なデザインの確立に向けて取り組んでいく。

<小松委員>

今のホームページは、容量が限界で内容を変えることができないと聞いたことがあるが、新しいホームページは随時更新できるような容量の余裕はあるのか。あるいは、情報が増えた分は、サブサイトに回していくということか。

<広報プロモーション課長>

5年前に比べて、情報量は非常に増えている。今回契約した業者のサーバーは、5年前の数倍の容量を持っているので心配はない。サブサイトについては、これまで有料でページを作成していたものが、一定制限はあるが無料で新しいページを作ることができる。これをうまく活用し、効果的な情報発信を展開していきたいと考えている。

<山本委員>

市民が情報を知りたいときは、「亀岡市 修学援助制度」というように入力して、そのページに入っていく。新しいホームページでも、検索エンジンで知りたいことを入力すると、そのページに入っていけるのか。

<広報プロモーション課長>

検索エンジンで亀岡市と施策名を入力していただくと、トップページではなく、そのページにダイレクトに飛ぶように考えている。

(質疑終了)

(市長公室 退室)

(休憩)

15:23~15:30

(3) 月例開催について

<木村委員長>

今後、SDGsの視点で進めていく項目を決めたい。今日は大まかな項目を決めたいと思うが、意見はあるか。

<松山委員>

亀岡市の現状の整理が必要だと思う。大きな項目としては、災害と教育の2つをやっているってはどうかと思う。

<木村委員長>

前回、消防団のことも出ていたが、それは災害に含めるということでよいか。

<松山委員>

それでよい。

<齊藤委員>

行政の縦割りをなくして総合的に考えていき、行政の無駄をカットしていく、重なっている部分をなくしていくというようなことをやっていきたいが、急にはできないと思うので、とりあえず、教育と防災について一つずつやっていけばよいと思う。

<木村委員長>

2点出ているが、もう一つくらいどうか。

<三上委員>

前回の委員会で、ICT、中学校給食などいろいろなことが出ていたので、教育といっても幅広くなると思う。市民の声を聞いたり、市民がアイデアを出したりする市民参画のシステムが亀岡市にあるのか。先ほど言われたように、審議会などは同じようなメンバーがやっている。市民参画となると、地域コミュニティや広報広聴といったことも必要になってくるのではないかと感じている。

<齊藤委員>

SDGsについての市民理解が得られなければ、前に進まない。今までのまちづくりは、各種団体の役員だけで会議をされてきた。ただ、公募をすると偏った人になってしまうということもある。無作為に市民に参加を呼びかけるといったやり方をしなければ、偏った意見になるのはよくない。そのような形で市民を募集し、声を生かしていけばよいと思う。

<三上委員>

力を入れて取り組んでいるセーフコミュニティも、みんなのものになっていない。市

民の参加が少ない。先ほどの講演で、すっげえでっけえ目標は、10年後このようなまちにしたいと思いをみんなで考えて、そのために今何をするかを逆算していくと言われていた。市民が無関心では、消防団にも人が集まらない。教育に関しても学校任せになり、地域の教育力がない。地域で子どもを守っていくということもできない。学校任せにして、学校をよくしようとしてもできない。災害と教育をテーマにした中で、行政がどうあるべきかということだけでなく、市民みんなが災害や教育を考えていけるように、横断的に研究できればよいと思う。

<木村委員長>

ほかに意見がなければ、教育と災害、災害には消防団の活動のことも含めて、2つの大きな目標を掲げるということではどうか。

— 全員了 —

<木村委員長>

今後、教育、災害という大きな目標の下に項目を作っていきたい。次回、意見をいただきたいと思う。

(4) 行政視察について

<木村委員長>

緊急事態宣言がいろいろなところで発令され、京都も延長される予定である。他市へ行くことは難しいと思うが、先ほど高木先生が言われたように点検する、亀岡をアップデートするという中で亀岡のことを考えていけばどうかと思うが、意見を願います。

<松山委員>

質の高いものを次の世代にバトンタッチできるかどうか大切だと思う。まずは現場を知るところからスタートできればと思う。災害に関しては、京都スタジアムの防災倉庫も含めて全ての亀岡市内の防災倉庫を点検し、現場の声を議会が拾い、どうすればよいかを考えていきたい。教育に関しては、市議会として中学校給食に向けて過去から議論があり、現在の選択制デリバリー弁当に行き着いた。次のステップの中学校給食に進めないのはなぜかという、予算の問題や学校との協議の中で難しい部分があったり、いろいろな課題があるかもしれない。そういうことをもう一度丁寧に知るために現地に行きたい。総務文教常任委員会でも、市民目線に立って、デリバリー弁当を食べてもよいのではないかと考えている。教育委員会もしていただいているが、議会としても保護者の意見を知りに行くことも大切だと思う。もう1点は、過去から総務文教常任委員会で議論になっている、東・西別院町の学校統廃合の話である。移行するとなると、2年間かかると聞いている。変わるという方針が決まってから2年なので、今の2年生は卒業してしまうなど、いろいろな課題があると思う。教育委員会が舵を取っていかなければならないが、議会としても子どもたちのことを考えてどうなのかということも議論し、総務文教常任委員会として方向性を出していかなければならないと思う。防災の部分、中学校給食の部分、学校統廃合の部分の3つについて、行政視察をして現場を知りに行くということで、亀岡市内を回りたいと考えている。

<木村委員長>

他市に行くのは難しいので、亀岡市内を見るのもよいと思うが意見はあるか。

<三上委員>

机上で論議することも大事であるが、現場を見て共通認識を持つことは、基本的には

賛成である。中身については、もう少し吟味すればよいと思う。

<齊藤委員>

それでよいと思う。統廃合の問題と給食の問題であるが、統廃合は南丹市がやっている。なぜそれを亀岡市にフィードバックしないのか。我々は議員であるので、物事を公平に見なければならぬ。保護者、児童、教員はそれぞれどうだったのか。本音を言う人、建前を言う人、言えない人がある。意見を聞く人の本音を的確に判断しなければならぬ。教員が少なくなれば困ると言う人、少なくなると職場がなくなると言う人、給食は現場が混乱するからやめてほしいと言う人、親が作る弁当を食べたいと言う子どももいるだろう。いろいろなことを考えないといけぬ。そのようなことを的確に視察することが大事になってくると思う。今後、検討していきたいと思う。

<木村委員長>

防災倉庫を点検して議会で考えることに反対の意見がなければ、私も中を見たことがないので、ミルクは粉から液体になったとか、賞味期限は1年であるとか、処分はどうするのかなど、いろいろなことがあると思う。台風シーズンが来るので、6月議会が終われば早急に、亀岡市内のどこに、どれくらいの規模の防災倉庫があるかを確認した上で協議していきたいと思うがよいか。

— 全員了 —

<木村委員長>

中学校給食については、SDGsの雇用の確保にも関係する。保護者、生徒、教員、いろいろな意見を聞かなければならぬ。すぐには難しいと思うが、南丹市が進んでいるということも視野に入れながらやっていければと思う。私もデリバリー弁当を一度食べてみたいと思う。保護者、生徒の意見のデータをしっかり取り、慎重にしていかなければならぬ。予算の関係もある。給食を分散することは、食中毒などのリスク回避になると思う。今後、そういったことも考えていかなければならぬと思う。まずは、6月議会が終われば日程を組んで防災倉庫を見に行く。デリバリー弁当は、いつでも食べられると思うので、委員会を午後1時からするとき、12時に集まって食事をして委員会に臨むという方法も考えていきたいと思うがどうか。

— 全員了 —

4 その他

(1) 次回の日程について

- ・ 6月18日（金）午前10時から （6月議会議案審査）

散会 ～15:50